

01

January 2023

知っているようで知らない精華町

その魅力を再発見するタブロイド。



冬晴れの日、川にはカルガモの群れが遊び、アオサギが羽を休めています。  
橋や堰、さまざま模様をなす川床のブロックを見ながら歩くのも楽しいですよ。



極楽寺の鐘樓・山田川沿い

# みづけ

seika

「家康は、逃げつつある。」

司馬遼太郎による長編小説『霸王の家』（新潮社）の中盤のクライマックス。堺（大阪府）付近で本能寺の変を知った徳川家康が明智光秀の軍勢を避けて、わずかな手勢で本国の三河国（愛知県）へ急ぐさまに、緊迫した筆致で綴られています。

2023年の大河ドラマ『どうする家康』の主人公でもあり、徳川三百年の礎を築いた戦国武将の、生涯最大の危機でした。

約200キロにも及ぶ一行の逃走ルートには諸説ありますが、河内から伊賀に至る説の一つが、精華町を東西に流れる山田川沿いの大坂道です。田畠を越え、山道を駆け上り、下り、東へ東へ。小説では「山城国相楽郡の山田荘」で宿を取った場面も描かれています。

いまも、山田川沿いの歴史街道には穏やかな田園風景とともに由緒ある寺社が点在します。



本文はこちらのQRコードからオンラインでもご覧頂けます。

